

目次 01 歴らぼ活動報告
03 学生の活動報告

02 授業紹介
04 教員の近況

01 歴らぼ活動報告

第一回篠山絵図調査@歴らぼ地図班

2015年9月17、18日、私達、歴らぼ地図班は、篠山市青山歴史村において、青山家文書の絵図の調査を実施しました。この調査は、KOREC（地域連携センター）による平成27年度「地域連携支援プロジェクト」の支援を受けて実施しています。篠山市教育委員会の所蔵する青山家文書は、近世において譜代大名であった青山家に伝わった藩政史料で、とても貴重なものです。調査する絵図資料は、未だ未整理のものであり、篠山市教育委員会の支援を受けながら、今回の調査を通じて整理を行い、目録を作成する予定です。こうした活動を通じて、歴史を学ぶものによる地域貢献の有り方を考えていきたいと思えます（篠山プロジェクト代表・4回生・森本あかね）



並河萬里調査班



みなさん、並河萬里(1931-2006)という人をご存知ですか？『シルクロード』という写真集で有名な写真家ですが、それだけでなく様々な活動しておられました。そんな並河さんに関する資料が、縁あって甲南大学図書館に残されています。私達調査班は、2015年の前期については水曜日の2,3限に集まり、それらの資料整理を行いました。学芸員や司書を目指す人にはとてもいい勉強なるし、並河さんの素敵な作品にも触れることができます。始まったばかり企画なので皆さんも参加してみたいはいかがでしょうか？(2回生・村上元汰)

歴らぼの活動への新たな参加者を募っています。希望者は、歴史文化学科図書室の入口横に設置した掲示板やこれまで発行した通信を参考にしてください。

また、活動は以下のホームページでも紹介していますので、そちらもご覧下さい。

<http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun>

歴らぼ活動紹介:高校世界史班

2015年4月から1、2回生で集まり、高校で世界史を学ばなかった、又は受験で使ったものの忘れてしまい授業についていけない人のために高校世界史を教え合っています。現在は2回生が中心となり、何回かに渡ってあるひとつの時代をまとめ発表しています。ゆくゆくは1回生にもどこかの時代を取り上げ発表してもらいたいと考えています。またこれを機に、世界史を勉強しなかった人にも興味を持ち、学んでいくきっかけとなればと思っています。(2回生・椿野佑太)



02 授業紹介

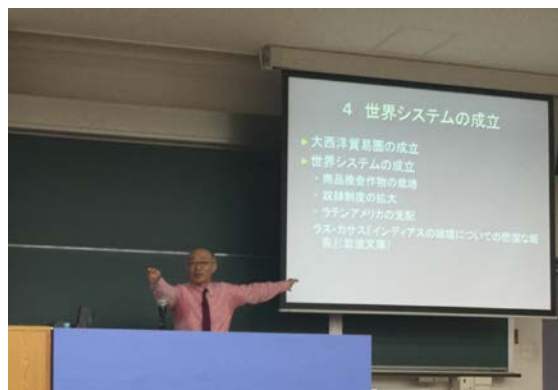
自然地理学 (担当: 手代木功基)



この授業では自然地理について学びます。高校の時の暗記するような勉強ではなく、地震や火山などの自然災害や産地河川などの仕組み、又世界の自然環境などを深く考えるものです。神戸の自然を学ぶ授業では、六甲山の成り立ちや植生などを実際に出かけて調べました。机の上で勉強するだけではわからないようなことを、実際に手で触れて感じることでより一層理解できました。実際の授業で得た知識や体験を自分の生活に活かせる講義だと思います。(2回生・松浦寛)

西洋史 I A (担当: 高田実)

この講義では近代ヨーロッパ史について学んでいます。近代ヨーロッパ前後の時代といえば、大航海時代、宗教革命、王政、革命、戦争などのイメージがあり、それらを高校時代に学んできたのではないかと思います。この講義はこのような事実を学ぶのではなく、実際にはどのようなことがあり、どのような背景があったのかを自分たちで考えていきます。自分たちが感じる素朴な疑問が、私たちの歴史観を育てていきます。ただ暗記する歴史から考える歴史を体験して実感してみてください。(2回生・椿野佑太)



横断演習 I (担当: 木股・中畠・佐藤 (泰)・鳴海)



この講義は、文学部内で学科を超えて実施する授業です。今回は行きたい場所をみんなで相談し、かつての大坂三郷北端である大阪・梅田駅界隈を巡検しました(2015年10月4日実施)。日本一長い商店街である天神橋筋商店街を探索したほか、くらしの今昔博物館、大阪天満宮、適塾、大阪市中央公会堂などを巡りました。各自がそれぞれ担当した場所の簡単な解説を行い、理解を深めました。歩いていると、現代の建物がひしめく街の中に歴史を感じさせる古い建物がいくつもあり、現在と過去を横断するよう感じました。先生方の案内もあり、とても濃く、充実した巡検となりました。(1回生・松本奈々)

(写真は適塾前を移動中の様子)

九州西洋史学会若手部会@福岡大学

私達は、2015年8月29日(土)、30(日)に、福岡大学で開かれた九州西洋史学会若手部会に参加しました。福岡大生、院生、琉球大生と1日目はビブリオバトル、2日目は福岡大学院生による研究の発表を聞き、ディスカッションをしました。空き時間には史跡巡りをし、現地でしか体験できないことを沢山学びました。また、様々な分野の教授たちとコミュニケーションをとることで、自分にとって得るものが多々あったと思います。(2回生・井上翔太)

(写真はビブリオバトルの様子)



博物館実習体験記@岡山県立美術館



私は、2015年8月18日から5日間、岡山県立美術館で博物館実習を行いました。この実習期間中、特別展の『円空木喰展』が開催されており、展示方法だけでなく、貸し出された作品への取り扱いについて詳しくお話を聞くことができました。実習期間中、何度か収蔵庫へ入らせていただくことができました。洋画、掛け軸、工芸品をそれぞれ取り扱い、調書を取る作業がとても難しく、印象的でした。長いと思っていた5日間も、過ぎてみればあっという間で、貴重な体験となりました。(4回生・藤本悠華)

教育実習体験記@兵庫県立東播磨高等学校

私は、母校の東播磨高校で2週間教育実習をさせていただきました。数年ぶりに訪れた母校はとても懐かしく、非常に新鮮でした。最初は緊張しましたが、生徒たちともすぐに打ち解けることができ、落ち着いて実習を行うことができました。授業は2年生の3クラスを担当し、各クラスの進度が違ったり、質問内容も異なるなど大変なことが多かったですが、担当の先生と相談し、どうすれば生徒たちに分かりやすい授業ができるかなど自ら考え行動する貴重な機会となりました。実習はたった2週間という短い期間でしたが、毎日が学ぶことばかりで、「教師」という存在を尊敬するとともに改めて魅力を感じました。(4回生・乙間優菜)



似顔絵



2014年度卒業の岡野浩平さん(私立如水館・高等学校:講師)が描いてくれた教員の似顔絵を紹介します。卒業式の朝に学校に来ると、額に入った似顔絵が廊下に掛けてありびっくりしました。ありがとう。(鳴海邦匡)



シカゴ滞在記

どちらかというと、アメリカはあまり好きな国ではなかった。そんな私が半年間シカゴに滞在することにしたのは、そこがアラブ史研究に関する最先端の研究拠点だったからだ。いわば仕事上の必要から、しぶしぶアメリカ暮らしに臨んだと言える。

しかし、いざ住んでみるとどうだろう。食べ物は思いのほか口に合った。街中に溢れるジャズやブルースも趣味に合った。研究上の利点は言うまでもない。シカゴっ子たちの、都会人には似つかわしくないおおらかさ、フランクさには何度も救われたし、様々な人種が入り混じって暮らす様は、自分もこの町の一員になれたような気持ちにさせてくれた。

今ではシカゴですっかり膨らんだビール腹をさすりつつ、何事も食わず嫌いはよくないと独りごちている。(中町信孝)



国内研究レター@松江



写真：16世紀のヨーロッパの地図に描かれた石見银山 (Hivami)

出典：『資料で見る石見银山の歴史』（石見银山資料館）

2015年9月から島根大学法文学部(島根県松江市)で国内研究を行っており、研究フィールドの一つである松江藩の研究に取り組んでいます。

松江藩を研究対象としたのは2009年からです。松江市史編集委員として『松江市史』の編集・出版を進めてきました。江戸時代で6冊の本を作る予定で、現在3冊が刊行済です。また松江市は松江城天守閣が国宝になったことで盛りあがっています。松江の歴史と文化に携わる身としてこの状況を楽しんでいます。

もう一つ、考えたいことがあります。島根県は古代から国際色豊かな地域でした。特に、世界遺産になった石見银山は、16世紀ヨーロッパの銀需要を支える鉱山でした。銀貿易を目指したヨーロッパ勢力が日本にやってきたことにより、江戸時代の外交・貿易の体制が出来上がっていくこととなります。かつて滞在したオランダから江戸時代の日本を眺めたことを思い出しつつ、世界の中の「徳川日本」に身を置いてみたいと思っています。(東谷智)



編集：西村伊代(歴らぼ編集部・2回生)、松浦寛(歴らぼ編集部2回生)、鳴海邦匡 発行：甲南大学文学部歴史文化学科

発行日：2015年10月25日 連絡先：〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1、078-435-2874 (学科事務)